

JAしまね おひより

2025
11

November
Vol.116

Shimane
Biyori

特集



もっと知りたい!
島根のお米が届くまで

「食べて農業にエールを!」
10・11月は
「国消国産月間」



©よい食P



SNSで旬な情報を
投稿しています



JAしまね 西いわみ地区本部版

しまねの ファーマーズ

Shimane farmers

丹後 貴視さん(35歳)

今月は、海士町で「蘇婆訶(そわか)梅」と「崎みかん」の栽培に取り組んでいる丹後貴視さんにお話を伺いました。



産業化への苦闘と梅との出会い

島根県の北に浮かぶ隠岐諸島・海士町。島の南端に位置する崎地区で、丹後貴視さんはミカンと梅の2つの作物に情熱を注いでいます。隠岐市出身の丹後さんが海士町へやってきたのは2013年のこと。島根県立大学で地域政策を学び、まちおこしに興味があった丹後さんは、海士町のミカン農家募集をきっかけに移住を決意しました。

昭和30年代から盛んだった崎地区的ミカン生産。しかし、生産者の高齢化や安価なミカンの流入により衰退の一途をたどっていました。そこで、「崎みかん」を復活させようと、海士町役場が中心となって「崎みかん再生プロジェクト」を立ち上げ、全国からミカン農家を募集しました。そこの名乗りを上げたひとりが丹後さんでした。来島当初は「ミカン産業を確立する」

島の南端に位置する崎地区は、潮風がミネラルを運び、粘土質の土壌が作物に適度なストレスを与えるという島特有の環境にあります。

内に島へ何度も研修に行き、「学んだ」と持ち帰って実践してみたものの、木が全く育ちませんでした。瀬戸内の温暖な気候での栽培方法は、冬が厳しい日本海側では全く通用しなかったのです。そこで、隠岐に合った栽培方法を模索する」とからスタート。「役場の計画では、3年でミカンができる予定でしたが、それが5年目くらいからようやく実がなりだしました」と丹後さんは振り返ります。「予定外の期間に、丹後さんの島農生活を助けるもう一つの柱となつたのが、地域で受け継がれてきた梅でした。

「蘇婆訶(そわか)梅」の始まり



自然なままに栽培される「蘇婆訶梅」は、人の手による除草と剪定で病害虫対策を徹底しています。

と意気込んでいましたが、その道のりは想像以上に過酷なものでした。



現在ミカンの樹は全部で1200本あり、8か所ほどの畑に分けて栽培しています。極早生品種「ゆら早生」は10月11日から収穫が始まりました。

まず、瀬戸内の島へ何度も研修に行き、「学んだ」と持ち帰って実践してみたものの、木が全く育ちませんでした。瀬戸内の温暖な気候での栽培方法は、冬が厳しい日本海側では全く通用しなかったのです。そこで、隠岐に合った栽培方法を模索する」とからスタート。「役場の計画では、3年でミカンができる予定でしたが、それが5年目くらいからようやく実がなりだしました」と丹後さんは振り返ります。「予定外の期間に、丹後さんの島農生活を助けるもう一つの柱となつたのが、地域で受け継がれてきた梅でした。

の天然塩「隠岐國・海士乃塩」を活かした梅干しづくりが構想され、食の研究家である故・中村成子(しげこ)先生の田に留まつた崎地区で始まりました。梅は『蘇婆訶(そわか)梅』と名付けられました。農薬も肥料も一切使わず、自然なままに栽培している『蘇婆訶梅』は、中村先生と崎地区の皆さんに築いてきた自然栽培の信念のもと、大切に育てられてきました。梅の栽培開始からおよそ10年後、高齢化により事業承継が課題となる中、「ミカン農家として若者が来たらしい」と丹後さんに梅の事業について声がかかりました。

潮風と粘土質が育む 自然の恵みと「青梅ブーム」



自然なままに栽培される「蘇婆訶梅」は、人の手による除草と剪定で病害虫対策を徹底しています。

ミカン栽培で生計を立てられなかつた初期の頃、梅栽培が丹後さんの生活を支えていました。現在も「梅の収入があるおかげでなんとか生活できている」と丹



梅の栽培は丹後さんが主体となりましたが、地域の方々と良い関係を保ち、畑にきていただいています。写真は元・梅干し会の4人で、今も手伝ってくれています

後さん。当初は地区住民と共同で作業を行っていましたが、高齢化により5年ほど前から徐々に丹後さんが一人で担うように。また、国の法律で梅干しが簡単に販売できなくなつた時期と前後して、図らずも世の中に「青梅ブーム」がやってきます。一部の若者たちが梅仕事と謳い、家庭で梅シロップや梅酒をつける人が増えていきました。丹後さんはそのブームの少し前に梅干しから青梅の販売へと事業をシフト。青梅需要の高まりに応え、首都圏の自然食品業者へ、多い時には2トンを出荷するまでに成長させました。梅の収穫期は初夏、ミカンの収穫期は秋と時期が分かれていたため、年間を通して経営安定につながっています。

「顔が見える」個人農家の誠意

ミカン栽培の苦境を乗り越え、梅の事業を安定させてきた丹後さんの農業は、地域の方の支えと、個人農家としての徹底した誠意で成り立っています。「地元にはミカンを20箱も買ってくれる方もいるんです。本当に地域の方に支えられているなど感じています」と丹後さん。梅やミカンの収穫時期には、地域の方にも手伝つてもらっています。地域の皆さんが、それぞれのやり方で當農を応援してくれることに、丹後さんは心から感謝しています。

そして、丹後さんが何よりも大切にしているのが、

個人農家としての信頼です。「結局、誰から買うかが重要だと思っています」と丹後さん。特に自然栽培の作物を求める消費者は、生産者の人柄や誠意を重視する傾向があるそう。なぜなら、直接会えないと、直接会えない中で、何をどのように育てているかを判断する上で、生産者を信頼するしかないからです。そのため丹後さんは、ネット販売での丁寧な対応や徹底した選別、梱包への配慮といった細かな努力を欠かしません。これは「真摯な姿を見せる」という、顔が見える生産者としての責任感の表れです。



大人の島留学生たちと
ミカン畑の草刈りなどをする丹後さん（右から2番目）



地域の方たちへの感謝や
取り組みについて話す丹後さん

「ずっと情報！」

海士町発「大人の島留学」制度

2020年に海士町から始まった「大人の島留学」は、全国各地の若者たちが島で暮らし、働くことができる制度のこと。丹後さんの農園でも大人の島留学生が訪れ、一緒に作業などを行っています。新たな風を吹き込む「大人の島留学」、今後も注目です😊🌟



島留学生が作ったお揃いの蘇婆訶梅Tシャツを着用する島留学生の皆さん

町、その他協力してくれた人たちの長年の挑戦の結晶です。「崎みかん」は酸味と甘みのバランスが良いミカンとして、島外にもファンを増やしています。丹後さんが海士町に来てから13年。丹後さんが作る梅とミカンは、産業化への苦闘、並大抵ではない長年の努力、そして「そわか（幸あれ）」の願いと、自然と人々の絆。その幾重もの想いを込めて、海士町崎地区の魅力を発信し続けています。

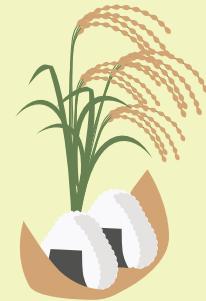
島外にもファンを増やしている丹後さんの「崎みかん」。通販サイトでも販売しています。



島外にもファンを増やしている丹後さんの「崎みかん」。通販サイトでも販売しています。

お米が届くまで

並ぶまでに誰が何をしているんだろう？」と疑問に思う人も



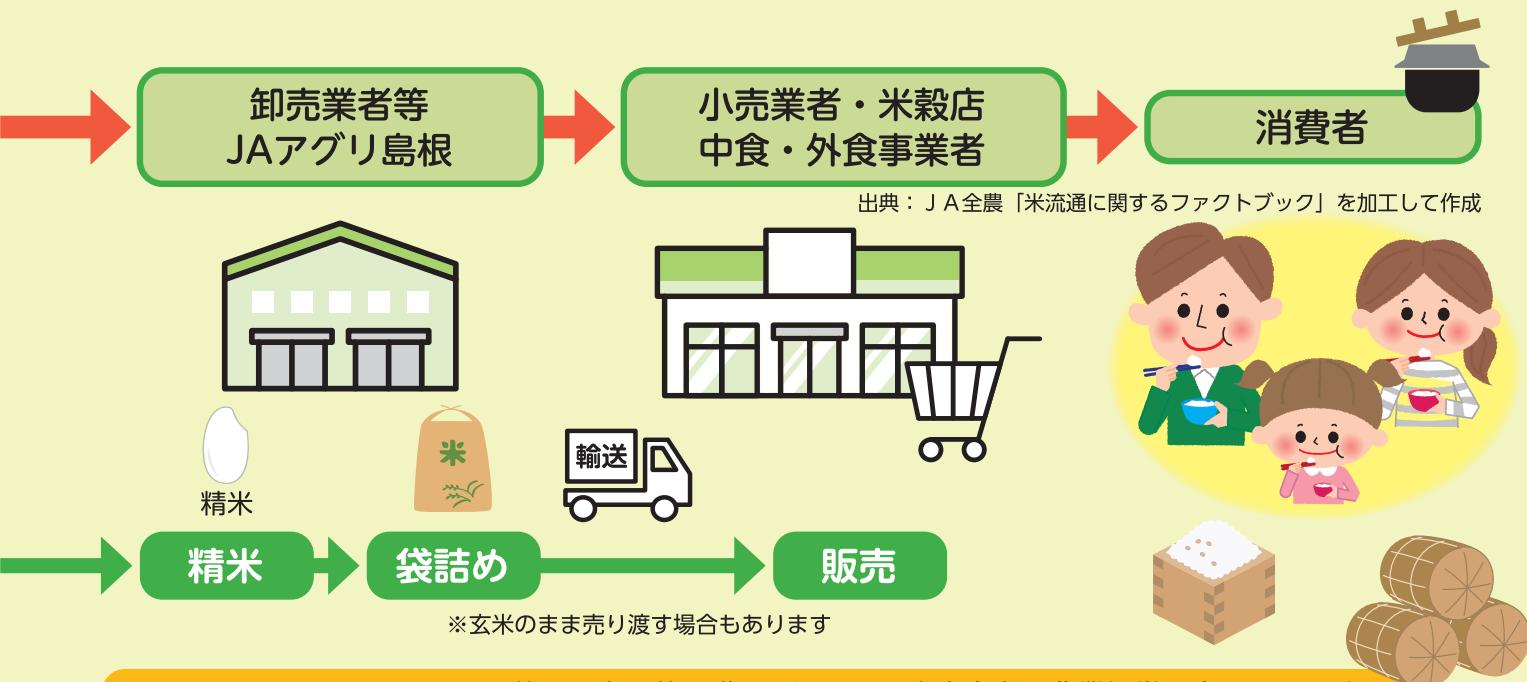
● 米卸売業者がしていること ●

集荷業者などからお米を仕入れて管理し、必要な場所に必要な量を安定して届ける役割を担っています。仕入れた玄米を精米し袋詰めをしたり、物流や品質管理、多様な販売先に对しての販売をしたりしています。

ここで皆さんか
よく目にすることに…！



島根県産米の主な3品種



J Aしまねでは、このように共同販売や共同購入を通じて県内生産者の農業経営を支えています。



販売

J Aしまねは、生産者からお米の販売を委託されています。丹精込めて作られたお米を少しでも高く販売するため、卸売業者などと価格交渉や販売契約を締結します。他にもお米の在庫管理や輸送管理、経費管理なども行います。



最終精算金の支払い

全てのお米の販売を終えると、その販売代金から運賃・保管料などの流通経費や販売手数料を差し引いた「最終精算金」を生産者へ支払います。お米は1年以上の期間を通じて販売するため、支払いは翌年の10月以降となります。



消費拡大

島根県産のお米を多くの人に食べてもらうため、認知度向上やイメージ戦略に取り組んでいます。今年度は新たに「きぬむすめ」の新CMやポスターを作成しました。

新TVCMは
こちらから



特集

もっと知りたい! // 島根の

「お米がスーパーなどで販売されているのを見るけど、店頭に多いはず。今月号はそんな疑問にお答えします！

●お米ができるまで●

田起こし



田んぼの土を耕し、水を入れて平らになります。

田植え



稻の苗が育ったら、田植えをします。

生育管理



除草を行ったり、肥料をまいりして管理します。

収穫



コンバインなどで刈り取り、脱穀します。

お米ができる消費者に届くまでの主な流れ

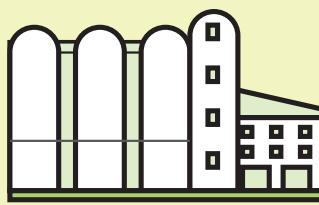
生産者が作ったお米を、各事業者が専門性を発揮して、鮮度と品質を管理しながら、全国各地へ流通させています。

生産者



生産

JAしまね（集荷業者）



カントリーエレベーターなど



米倉庫



保管

乾燥



米倉庫で保管



お米の受入

生産者が収穫したお米を集めることを集荷といいます。JAに出荷いただいた生産者に対し、需給状況や流通経費、生産コストなどを踏まえて決定する「概算金」を支払います。

持ち込まれた粉は、カントリーエレベーターやライスセンターと呼ばれる乾燥調製施設で乾燥・調製を行い、粉殻を取り除いて玄米にします。また、生産者自身が乾燥・調製した玄米もJAに持ち込まれます。

玄米は紙袋やフレコンと呼ばれる大型の袋に詰められ、米倉庫で保管されます。15度程度の低温で保管することで、品質の劣化や害虫、カビの発生を防ぎます。

J Aしまねの竹下克美組合長ら本店常勤理事は、地域の担い手・大型農業法人・集落営農組織等を訪問し、今後のJ A運営に反映させるため各所で組合員の皆さまの貴重なご意見・ご要望を伺っています。

農業の現場から声をつなぐ ～ふれあい訪問記～

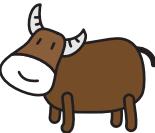


今回の
訪問先

J Aしまね 石見銀山地区本部管内

●株式会社トウチュウ温泉津事業所

●厚朴邦広さん ●森徳行さん ●山中圭二さん



株式会社トウチュウ温泉津事業所の従業員・森山貴史さん（左）から
パブリカ栽培について話を聞く竹下組合長（右）

株式会社トウチュウ温泉津事業所は、トロ箱栽培でアムスメロンやレタスを生産。収益確保が課題となるなか、今年から試験的にパブリカ栽培を開始し、収量約1トンを目指しています。同社の森田順士副社長や従業員らと、夏の高温化で秋作メロンの生産が安定しないことやトロ箱栽培のメリット・デメリットなど意見を交わしました。森田副社長は「近年メロンの買取単価が変わっていないため上げてもらいたい」と要望しました。

厚朴邦広さんは、奥さんと息子さんの家族3人で和牛繁殖（親牛14頭、子牛7頭）を中心に水稻やアムスメロン、レタスなどを栽培。厚朴さんは温泉津町施設園芸組合の組合長やJ A理事として地域を牽引しています。厚朴さんに放牧地を

順士副社長や従業員らと、夏の高温化で秋作メロンの生産が安定しないことやトロ箱栽培のメリット・デメリットなど意見を交わしました。森田副社長は「近年メロンの買取単価が変わっていないため上げてもらいたい」と要望しました。

トロ箱栽培でアムスメロンやレタスを生産。収益確保が課題となるなか、今年から試験的にパブリカ栽培を開始し、収量約1トンを目指しています。同社の森田順士副社長や従業員らと、夏の高温化で秋作メロンの生産が安定しないことやトロ箱栽培のメリット・デメリットなど意見を交わしました。森田副社長は「近年メロンの買取単価が変わっていないため上げてもらいたい」と要望しました。



放牧地を案内する厚朴さん（左から2番目）

森徳行さんは、和牛繁殖（親牛35頭、子牛22頭）を中心に水稻を栽培。最近では孫の友稀さんが農業経営に参加しています。森さんと子牛価格の動向や今年産米の出来・概算金、天候が悪く牛のエサとなる藁とりに苦戦していることなど意見を交わしました。森さんは「孫がいることもあり、増頭や牛舎を建てるなどを考へている」と意欲を燃やしました。

山中圭二さんは、農業に縁がありませんでしたが、Uターンで地元に戻ったのをきっかけに令和4年に新規就農。現在はメロンが作られていた空きハウス2棟を引き継ぎ、アムスメロンの栽培に取り

案内してもらいました。山中さんは、秋作メロンの生育状況や収穫時期の労働力、培土の更新頻度や更新にかかる経費などについて意見を交わしました。



森さん（中央）と意見を交わす竹下組合長（左）と
日高副組合長（右）



トロ箱栽培について山中さん（右）に
質問する竹下組合長（左）

組んでいます。山中さんは、秋作メロンの生育状況や収穫時期の労働力、培土の更新頻度や更新にかかる経費などについて意見を交わしました。



学校給食に新米10トンを寄贈

J Aしまねは、県内の学校給食に使ってもらおうと新米「きぬむすめ」10トンを県へ寄贈しました。今回初の試みで、寄贈されたお米は県内の公立小中学校や県立特別支援学校の学校給食で提供されます。

国消国産や食育活動の一環として、米の価格高騰が続くなか、お米を贈ることで教育現場で米づくりの現状を考えてもらうきっかけを作ろうと実施。また、県産米の主要品種や生産工程が載ったチラシを併せて配布し、米作りに対する関心や理解醸成につなげる。

10月15日には、当JAの竹下克美組合長や日高光弘副組合長らが県庁を訪れ、丸山達也知事にお米を手渡しました。丸山知事は「猛暑など厳しい環境下で、農家の皆さんのが丹精込めて作った新米をいただき大変ありがたい」と感謝を述べました。竹下組合長は「学校給食を通じ、島根の次代を担う子どもたちの健康や成長を支えたい」と話しました。



丸山知事（左から3番目）らに新米を寄贈する
竹下組合長（右から3番目）ら



第16回全日本ホルスタイン共進会に向けて壮行会を開催

10月25、26日に北海道で行われる第16回全日本ホルスタイン共進会を目前に迎え、10月9日に島根県代表壮行会が開かれました。県代表牛の出品者らは大会に向け意気込みを語り、丸山達也知事や当JAの日高光弘副組合長など関係者から激励を受けました。

同共進会は、おおむね5年に1度開かれる全国規模の乳牛の品評会で、前大会はコロナ禍で中止されたため10年振りに開催されます。島根県からは出雲市の河村博文さん、和田雅樹さん、出雲農林高校が県代表として3頭出品します。

丸山知事は「県代表として活躍いただくことが島根県の酪農振興や後継者確保につながると考えている。奮闘いただき島根の酪農を支えてほしい」と激励しました。

速報 同共進会が開催されたので、結果をご報告いたします。
なお、河村さんは島根県代表として過去最高の成績を収めました。
▼第10部優等賞3席＝河村博文さん
▼第2部2等賞12席＝和田雅樹さん ▼第2部2等賞14席＝出雲農林高校

※広報誌の作成スケジュール上、当日の詳細やインタビューなどは12月号で改めてご報告します。



河村さん（前列左）、出雲農林高校の生徒、
和田さん（前列右）と丸山知事（前列左から5番目）ら

当日の様子はインスタグラムからも！



令和7年度島根中央子牛共進会を開催

J Aしまねは10月10日、松江市の島根中央家畜市場で令和7年度島根中央子牛共進会を開きました。県内東部地区から選抜された雌子牛35頭が出品され、改良の成果や生産者の飼養管理技術を競い合いました。

子牛は月齢順に第1区と第2区に区分。各区の首席から選ばれるグランドチャンピオンに飯南町の農事組合法人かわしりの出品牛「ゆりな」号、第1区首席に安来市の柴田慎二さんの出品牛「ひみさくらこ」号が選ばされました。

グランドチャンピオンの「ゆりな」号は第2区に出品。同区の審査主査を務めた全国和牛登録協会島根県支部の小林健宣支部長は「理想的な発育状況で、体全体の幅や肋の張り出し、後躯の尻幅などが非常に良好だった」と講評。同法人の加藤博樹さんは「県有種雄牛を積極的に交配し、こだわった中でできた牛だった」と受賞を喜びました。

その他の主な受賞者は次のとおり。

◆第1区 ▽次席＝朝山猛（雲南市）▽三席＝清山高康（安来市）
▽四席＝濵田勉（奥出雲町）▽五席＝勝田律江（奥出雲町）
◆第2区 ▽次席＝原田敦子（奥出雲町）▽三席＝原寿穂（斐川町）
▽四席＝和泉宏幸（奥出雲町）▽五席＝福田節子（奥出雲町）



グランドチャンピオンの「ゆりな」号

「元気な地域」を女性部の力で!

くにびき女性部



JAしまねくにびき女性部は、仲間づくりや食・農・地域の活性化を目的とし、魅力的な女性部活動を開催するために、「文化歴史・趣味」「農業加工」「健康」の3グループで「目的別グループ活動」を実施しています。

令和6年度は、「山陰のあじさい寺月照寺拝観」や「NHK松江放送局見学」で身近な文化・歴史や社会について触れ、「認知症サポーター養成講座」では認知症に対する正しい知識と理解を学び、「椅子ヨガ」で心身をリラックス、また「こにんにやく作り」「みそ作り」のような食と農に関わることなど、充実した活動を行うことができました。

今年度も、食と農を基軸として、地域に貢献することを目指し、みんなが笑顔で元気になれる活動を、「あい♡」をこめて行っています。

「学びあい♡」



JA女性組織3カ年計画
「『あい♡』からはじまる『元気な地域』
をみんなの力で」の実践初年度です。

助けあい♡ 学びあい♡ 育てあい♡

の3つの重点テーマを掲げ活動します。

一所懸命青年連盟

JAYOUTH

JAしまね出雲青年連盟

ふくだ たつや
福田 龍哉さん



地産地消に取り組み、農業を通じて、地域に貢献していきたい

JAしまね出雲青年連盟（以下、農青連）の福田龍哉さんは、出雲市野石谷町で養鶏業を営んでいます。祖父の代から始まつた養鶏業は、平成6年に法人化され、福田さんも大学卒業後に働き始めました。

福田さんは品質の高い鶏卵の生産に努めるため、鶏舎内の換気や温度管理など、鶏が快適に過ごせる環境づくりに力を入れている他、鶏舎の消毒の徹底や分割管理といった安全対策にも細心の注意を払っています。「お客様から『おいしい』と声をかけていただけるのが一番の喜びです」と話す福田さん。地区内に卵の自動販売機を設置し、お客様に新鮮な卵をより手軽に手に取つてもらえるような取り組みも行っています。

農青連にはJA職員の勧めで加入し、「さまざまな人と関わることができ、仲間づくりができる」と話す福田さんは、鶏糞を他の農作物の生産者に提供するなど、仲間と支え合いながら日々の仕事に取り組んでいます。3人の息子さんがいる福田さんは「息子たちにこの仕事を引き継げるよう、これからも養鶏業を続けていきたい」と話し、今後も安全安心でおいしい鶏卵の生産に取り組んでいきます。



連作回避とスペースの有効活用

日本では、四季それぞれ気温や日長、雨量などにはっきりした特徴があります。そのため野菜の種類に適した栽培時期を選び、季節の変化に対応した栽培管理をしなければいけません。狭い畠で多種類の野菜を作るには、菜園利用のプランが必要です。季節に応じた種類・品種を選び、菜園の利用ローテーションを考えましょう。

野菜の選び方

野菜の生育特徴から見ると、共通した栽培管理の方法があります。野菜の類縁関係を知ると、同じ仲間同士で肥料や病害虫が共通することが多いので、作付けプランを立てるのに役立ちます。野菜の種類と品種を選ぶポイントは、①利用・調理に適しているか ②その土地の気候や栽培時期が合っているか ③病気や害虫に強く作りやすいか、などをあらかじめ調べておきましょう。

畠の大きさによって野菜の選び方は異なります。パセリやミツバ、バジルなどのハーブ類は料理の付け合わせに少しあれば良いので、庭の片隅で自給できます。

畠が100平方mあると年間30品目以上を作ることができます、スペースが広いほど栽培管理に手間がかかり、特に夏場の灌水（かんすい）や炎天下の草取りは、体の負担となることもあります。

連作と輪作

同じ畠に同じ野菜を連続して作ることを「連作」といいます。連作すると生長に障害が出る野菜があります。エンドウは一度作ると、4、5年は作れません。ナス、トマト、ソラマメ、サトイモなどは3、4年、レタス、ハクサイ、イチゴなどは2年、ホウレンソウ、コカブ、インゲンなどは1年です。サツマイモ、カボチャ、タマネギのように連作しても生長に障害が見られない野菜もあります（表）。

また、同じ科に属する近縁な野菜は似た性質を持っているため、病害虫と肥料の吸収が共通しています。そのため、連作すると土に生息する病害虫が増えたり、微量でも必要な肥料成分が不足して野菜の生長を妨げることがあります。

このような連作障害を防ぎ、地力が衰えないようにするためにには性質の異なる野菜を計画的に順次、作付けする「輪作」をします。

作付けプラン

例えば、4m×5mの20平方mの畠の場合は、家庭での消費量が多いダイコン、キャベツ、ジャガイモ、ネギなどを中心に4区画以上に分けて作付けプランを立てると良いでしょう（図）。

作付けプランは次の手順で作りましょう。

①菜園を均等に4ブロックに分ける。

②作りたい野菜を「ナス科」「ウリ科」「イモ類・ヒガンバナ科」「マメ科・スイートコーン」「小型葉物類」「セリ科」「アブラナ科」の7種類に分ける。

③1年ごとにブロックのローテーションを行う。

このようなローテーションで、ナス科やエンドウなどの連作障害をおおむね避けることができます。

「ベランダでも育てられる みんなのコンテナ栽培」

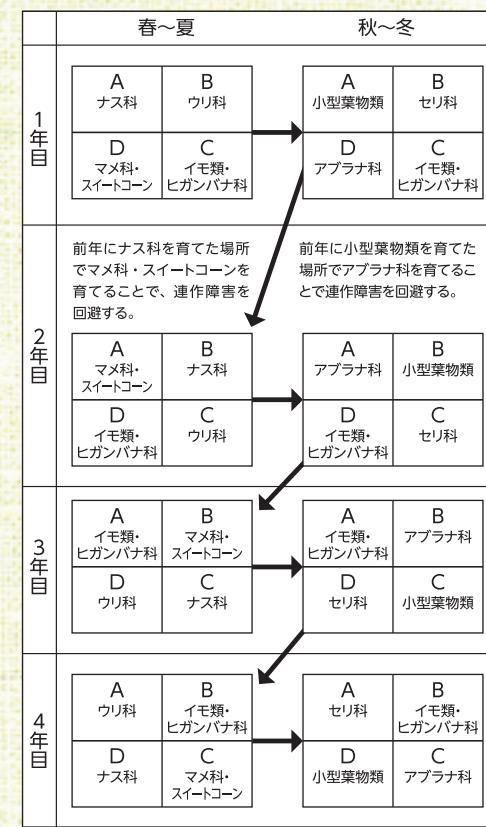
をJAしまねホームページで連載中です。今月は「ジャガイモ」！



表 連作障害の出やすい野菜、出にくい野菜

連作障害の出やすい野菜	スイカ、キュウリ、メロン、トマト、ナス、ピーマン、エンドウ、ソラマメ、エダマメ、サトイモなど
連作障害の出にくい野菜	サツマイモ、カボチャ、タマネギ、小松菜など

図 作付けプラン例(4m×5mの20平方mの場合)



ナス科…トマト、ナス、ピーマンなど
ウリ科…キュウリ、カボチャなど
ヒガンバナ科…ネギ、タマネギなど
マメ科…エダマメ、インゲンマメなど

セリ科…ニンジンなど
アブラナ科…キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど
イモ類…サツマイモ、ジャガイモ、サトイモなど
小型葉物類…ホウレンソウ、小松菜など

理事会情報 (10月31日開催)

- ①令和7年度の補助事業の実施について
- ②「組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針」の見直しについて
- ③管理部門集約のすすめ方について
- ④「職制規程」の一部改正について
- ⑤令和7年度9月末仮決算および事業実績について
- ⑥出資口数の減少（減口）の承認について
- ⑦行方不明組合員等の脱退手続きに係る組合員資格の確認について
- ⑧斐川地区本部 高齢者福祉事業の廃止及び運営規程等の廃止について

まちむらネットワーク



第9回JAしまね西いわみ地区本部 サッカーカーニバル開催

JAしまね西いわみ地区本部は10月18日、益田市運動公園自由広場において第9回JAしまね西いわみ地区本部サッカーカーニバルを開催しました。

サッカーを通じて交流を深め、子供たちの健全な育成を図ることを目的に開催するこの大会に、小学生10歳以下のメンバーで構成するアンダー10の選手120人が参加、9チームが3つのグループに分かれ成績を競いました。

選手の交代は制限なく自由交代とし、各チームともエントリーシート全選手に出場場面が与えられ、中には正確なパスや相手チームのディフェンスを交わしてシュートに持ち込むなど、傍で観戦する家族やチームメートからは大きな歓声が上がっていました。

ゲームの合間にボールタッチの柔軟性や正確性が求められるドリブルタイムレースも行われ、自慢のドリブラーたちが最速タイムを競いました。

また、食と農について学んでもらおうと、10問の問い合わせ記載された問題用紙に○×で答える「ちやぐりん食農クイズ」を実施しました。

上空の機嫌を窺うようにして進

められた大会も、午後になると予報どおりの雨模様。それでもこの

日を楽しみに参加加

した選手たちは、

雨で滑る芝生の上

を転がるボールを

追いかけ、最後まで

チームの勝利を信じて力いっぱい

戦いました。

試合の結果は次の通りです。

優 勝	PSVラボーナ
準優勝	PSVシャペウ
3 位	吉田2号



第9回サッカーカーニバル優勝チーム《PSVラボーナ》



午前中の天候から一転、雨の中でのゲームを勝ち抜きました。



全9チームの選手が揃って開会式





まちむらネットワーク

J Aしまね年金友の会津和野支部 第5回年金受給者大会開催



J Aしまね年金友の会津和野支部(齋藤勲支部長)

は10月23日、津和野町民体育館において第5回年金受給者大会を開催しました。

開会にあたり齋藤支部長は「初の女性総理大臣に高市早苗さんが就任され、我々高齢者が元気で過ごせる施策を力強く推進していただけすると期待している。直近の津和野町の人口が約6,200人、このうちの半数以上が高齢者・後期高齢者であり、この大会に参加申し込みをいただいた方が140人。本日お忙しい中ご参加いただいた皆さんには、今後地域のため自分自身のために健康でご活躍をいただきたい。町内に4つの金融機関があり、受給者自身の

申請で利用窓口が決められる。こうした交流の機会を設けているのはJAだけであり、今日一日を楽しく過ごし、後輩の皆さんにお声がけをいただいて仲間を増やしていくうではありませんか」と挨拶しました。

続いてJAを代表し西いわみ地区本部の竹長隆本部長は「本日この大会開催に向けて、支店職員をはじめ担当する職員が事前の打ち合わせ等万全の準備をしてくれました。大会終了後にはアトラクションも用意しております。時間の許す限りごゆっくりと楽しんでいただき、今後とも体調管理等十分ご留意の上お元気にお過ごし下さい」と挨拶しました。

続く来賓の挨拶で下森博之津和野町長は、「5期目の当選を果たしたお札を述べた後、医療をはじめ高齢者福祉に関するこれまでの取り組みや、今後における町の方針について紹介し「まだまだ不十分という意見はあると思うが、津和野町としては少しでも高齢者の皆様の安心した生活につながる施策を充実させてきた。今後の高齢者福祉についてもより一層色々な声に耳を傾けながら、きめ細かい対応をとつてまいりたい。皆さんのが笑顔で暮らすということにおいては、日々の生活を楽しむことが大事。こうした機会を設けていただきたいJAの皆さんに敬意と感謝を申し上げ、参加された皆さんには今日のこの大会をゆっくりと楽しんでいただきたいと思います」と述べられました。

松浦利幸支店長がこれまでの活動報告並びに11月4日～5日催行予定の寿ロードや、資料に添付した共済・金融関連商品について説明を行いました。

アトラクションでは、浜田市に拠点を置く夏風亭一門による落語、萩市の演劇倶楽部花車の皆さんによる舞踊が始まり、参加いただいた会場の皆さんには、お弁当を食べながら楽しく過ごしていただきました。



下森町長
来賓の挨拶



竹長本部長
JA挨拶



齋藤会長
開会の挨拶



フィナーレは中国四川省の伝統芸能「変面」、会場は大いに盛り上がりいました。

夏風亭一門の落語
に笑いをもらいました。

演劇倶楽部「花車」
による踊りと歌が始まりました。





令和7年産秋作アールスマロンの出荷が始まる

J Aしまね西いわみ地区本部は10月8日、益田市飯田町の飯田選果場で秋作アールスマロンの初選果を行いました。

7月の定植以降9月まで猛暑が続き、生育面を不安視する声も聞かれましたが、糖度が14度以上あり、玉サイズ・品質ともに例年並みの良いメロンに仕上りました。

益田メロン部会（世良竜一部会長）ではヴエルダやソナタといった品種を作付けしており、栽培面積も昨年の作付けから12・8アール増の557・9アールとなっています。

初日のこの日は、6人の生産者が約3トンのメロンを出荷、2L（1.8kg）・3L（2kg）中心の玉流れで、製品379ケースが地元益田青果市場をはじめ県内、京阪神の市場へと送られました。

担当する営農経済部指導販売課の森本大史課長は「近年の気温の上昇によって、栽培管理等生産者の皆さんの多大な苦労が伺える。後継者による世代交代や新規就農者など部会の若返りが進む中、受け継がれた技術と若い探求心が軸となつてこの産地が支えられている。11月最終までしっかりと販売し生産者の努力に報いたい」と話しました。

益田メロン部会では、毎年の気温の変化や栽培管理上の課題と向き合いながら、春のアムス・夏のアールスマロンの出荷でメロン栽培の一年を締め括ります。



熟練した選果スタッフの判断で等階級が振り分けられていきます。



スタッフの手によって綺麗に箱詰めされました。



流れてきたメロンは出荷箱に納められ市場へと出荷されていきます。



初出荷を前に出荷協議会を開催し、出荷数量176トン・22,000ケース（8キロ）、販売金額1億1,220万円を目標に掲げ取り組むことを決定しました。

10月2日（飯田子育て支援館）



世良竜一部会長、宅野和樹副部会長（検査部長）・松本貴之副部会長（技術部長）の入念な確認が行われました。



まちむらネットワーク

赤雁農村歳時記稻刈り体験



順番を待って杵で餅つきを体験しました。



子どもたちに人気の綿菓子やかき氷

益田市の有限会社赤雁の里（渡邊一行代表）とJAしまね西いわみ地区本部は9月28日、市内の児童・幼児とその家族等約60人が参加し、一年間を通した取り組み「農村歳時記」の最終行事となつた田んぼアートの稻刈りを行いました。

この取り組みを始めて今年で21年目、春の田植え体験や生き物調査に参加した児童らは、鎌を手に春に植えたアート「米」の文字と✿の図をどんどん刈り進んでいました。事前に家族ごとに準備した飯盒炊飯も、稻刈りが終わる頃には炊き上がり、赤雁の女性グループの皆さんから提供された豚汁や酢物と一緒に食べました。

また、参加した子どもたちは杵つき餅も体験し、餡子やきな粉・大根おろしを添えて口に運んでは収穫の喜びと食欲の秋を満喫していました。



少しずつ鎌の使い方にも慣れ、次々と刈り進んでいきました。



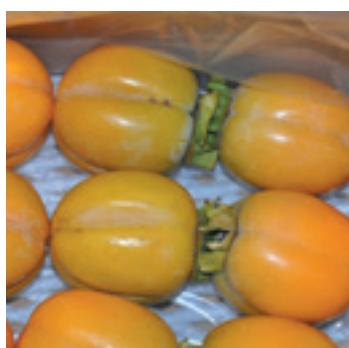
稻刈りを終えて全員で記念撮影



足元の自由を奪う田んぼの泥と闘いながら、描いた米の文字と✿の絵を刈り取りました。



選果スタッフの厳しい検査を受け、ラインを流れる益田市の特産品「西条柿」



ドライアイスを同梱後密封された柿は県内外の市場へと発送されました。

10月6日、益田市内の国営開発地など各地で栽培されている西条柿の出荷が始まり、JAしまね西いわみ地区本部飯田選果場で初選果が行われました。

事前に行われた出荷協議会では、JAの担当者が令和7年産西条柿の販売方針や出荷計画について説明を行い、出席者全員で形状や着色など選果基準について確認しました。

J Aしまね西いわみ西条柿部会（寺戸伸郎部会長）では、令和7年産の総出荷量を70トン、秀品率50%を目標に11月下旬頃まで取り組むこととしています。午後から始まつた選果を前に、格付けに個人差が出ないよう基本となる柿の形状や着色の度合いなどを選果スタッフ全員が確認しました。

選果作業が始まると、サイズ・等級ごとに仕分けられた柿は、脱氷用のドライアイスと一緒に箱詰めされ、益田市内をはじめ県内外の市場へと送られていきました。



出荷協議会では各自の収穫適期（色付き具合）等の確認をしました。

今年も西条柿の出荷が始まりました

まちむらネットワーク

MACHI MURA Network



J A 女性部美都支部がおもてなしの会を開催



勝つために行うジャンケン、講師に後出しで負ける難しさが脳を活性化させます。

はじめにジャンケンゲームで脳と指先の準備運動を行い、勝ちにこだわる通常のジャンケンに比べ、講師に遅出しで負けなければならぬジャンケンでは、少し時間がかかる場面も見受けられました。老化によるもの忘れと認知症の違いについて、日頃の生活の中で思い当たるものにくつか挙げて確認した後、認知症予測テストでの忘れチェックを行った。認知症予測テストでの忘れチェックを行った。

バランスの良い食事や適度な運動、良質な睡眠といった日頃の生活の中にも重要な予防策があることを改めて確認しました。

昼食には役員の皆さんによる地元の食材を使った手料理が振舞われ、参加者全員で食事をし、ようやく訪れた秋のひと時を楽しく過ごしました。

J Aしまね西いわみ女性部美都支部（佐々木孝子支部長）は10月2日、美都町仙道の東仙道公民館で「おもてなしの会」を開きました。この会は、80歳以上の同支部会員のこれまでのご尽力に対する感謝と慰労を目的に毎年開催しています。

この日は、益田市役所美都地域総務課から講師を招き認知症について学びました。

はじめにジャンケンゲームで脳と指先の準備運動を行い、勝ちにこだわる通常のジャンケンに比べ、講師に遅出しで負けなければならぬジャンケンでは、少し時間がかかる場面も見受けられました。老化によるもの忘れと認知症の違いについて、日頃の生活の中で思い当たるものにくつか挙げて確認した後、認知症予測テストでの忘れチェックを行った。認知症予測テストでの忘れチェックを行った。



この日のために役員会で
決定したメニュー



皿の中央には美味しいオムライス!

J Aしまね西いわみ女性部下本郷支部（大畠まきみ支部長）は10月5日、恒例のミニデイサービスを開催しました。相続時を想定した終活セミナーでは、メモリアルセンターの石田豊樹センター長が、もし自分が亡くなつてしまつたときに、思いをわかりやすく伝える方法としてのオリジナルノートの活用を説明しました。また、麻生久美先生の素敵なお絵かき、下本郷出身の松元明世先生の元気いっぱいの進行で楽しく行いました。

参加いただいた地区的皆さんには、女性部員が腕によりを掛けた家の光レシピの昼食をふるまい、大変好評をいたしました。

下本郷女性部 ミニデイサービスを開催





まちむらネットワーク

初めての試みに地域が沸いた！ 西益田支店

J Aしまね西益田支店（佐々木暢支店長）は10月11日、支店駐車場を会場に「西益田支店まつり」を開催しました。

祭りの開始を告げる佐々木支店長は「西益田支店で初めて開催する祭りです。水分補給を忘れず大いに楽しんで下さい」と話しました。

会場内には職員考案の各種ゲームコーナーや、女性部の皆さんによる匹見町のわさびや新米、花やミニトマトといった農産品の販売が行われ、新米のすくいどり・栗の詰め放題も多くの挑戦者で賑わっていました。

地元企業の協力でファーストフードコーナーも設けられ、来場者は軽食を摂りながら、太鼓の演奏や踊りなど次々に繰り出されるステージ上の演目を見入っていました。

支店近くに住む組合員の方は「西益田地区で農協が主催した祭りはこれまで記憶がない。来年もまた是非とも開催してほしい」と話しました。

真夏へ引き戻されたかのような強い日差しのなか始まつたこの祭りは、支店運営委員会や女性部の皆さんの大好きな後ろ盾がえとなつて開催に至り、延べ500人を超す多くの皆さんに来場いたいたことは、より地域に溶け込もうと支店が目指す「地域との繋がり強化」に向けて確実な前進の一歩となりました。



季節外れの暑さで飲み物も好調過ぎる売れ行き



女性部コーナーの栗の詰め放題。最後の挑戦者は上手に全ての栗を詰め（載せ？）ました。



新米のすくいどりコーナーには、やる気満々の精鋭が続々と挑戦



ステージのオープニングを飾ったひきみ太鼓愛好会匹見ジュニアの皆さん



米やミニトマト・山葵・アールスメロン、更には和牛肉と豪華な景品が当たる抽選会が行われました。



子どもたちには人気の必ず貰える景品付きゲームコーナー



西益田小学校吹奏楽部の皆さんによる演奏



ラス・サーラフラメンカスの皆さんによるフラメンコ



ケニケニ・カヒの皆さんによるフラダンス



最後は500個のもち撒きでまつりを締めました。



梅月神遊座の皆さんによる石見神楽 恵比寿舞の上演



ひきみ太鼓愛好会喜楽組の皆さんによる和太鼓演奏



新選果場・集荷場建設に係る要望書を提出しました



左から大場理事、寺戸伸郎（西条柿）、金山千年（トマト）、世良竜一（メロン）、山本市長、又賀直樹（ミニトマト）、豊田証治（ぶどう）

J Aしまね西いわみ地区本部と益田市を代表する農産物（メロン・トマト・ミニトマト・西条柿・ぶどう）の各生産組織の代表者は10月21日、益田市の山本浩章市長を表敬訪問し、代表して益田メロン部会世良竜一部会長が、老朽化した選果・集荷の新たな集約施設建設に向けて、理解と協力を求める要望書を手渡しました。

山本市長からは「新選果場・集荷場建設は予てからの懸案で、何とかして建設に向けて前へ進みたいと思つてはいる。飯田・喜阿弥の施設も老朽化し、働く環境としても夏場などははじめに各部会の代表者がそれぞれの立場から現状を報告し、益田市における日頃の販売協力に感謝を伝え引き続きの支援をお願いしました。

酷な環境だと思う。生産者の皆さんにより強い意欲をもつて、生産を継続・拡大していくためにはこの施設の建設は不可欠。生産者の負担やJ Aの投資に限らず、国・県の支援に併せて市の追加負担分についても検討したい。最後はJ Aの決断と県・市がどれだけ上乗せができるかだと思うので引き続き宜しくお願いします」と回答がありました。

J Aを代表して西いわみ地区本部の大場尚俊理事が「J Aしまねの理事会において『益田市は島根県の施設園芸の中心地。この新選果・集荷場建設の実現は、J Aしまねの拠点モデルとなるもので必ず成功してほしい。期待している』と心強い意見もいただいた。今後も各部会の利用促進と後継者育成に力を入れ、島根県・J Aしまねの農業の中心となるよう頑張りますので宜しくお願ひします」と話しました。

当日は予報に反して天候に恵まれたこともあり、来場者は実りの秋を感じていただいた一日となりました。



J Aしまね六日市支店は10月18日、吉賀町真田（よしかみらい、高津川テラス）において農業祭を開催しました。当日のステージイベントとして、双葉保育所園児および柿木CREWによるキッズダンス、紅蝶蓮による「よさこい」、左鎧神楽社による野菜講習会では、参加者は真剣に説明に聞き入っていました。また恒例となる「新米品種当てチャレンジ」では、吉賀町産の新米4種（つや姫、つきあかり、コシヒカリ、きぬむすめ）を来場者に食べ比べていただき、見事3名の方が全品種正解されました。その他輪投げゲームやお米の掬い取りに加え、地元野菜、メロン、柿、和牛肉、肥料等の生産資材を販売しました。

六日市支店農業祭

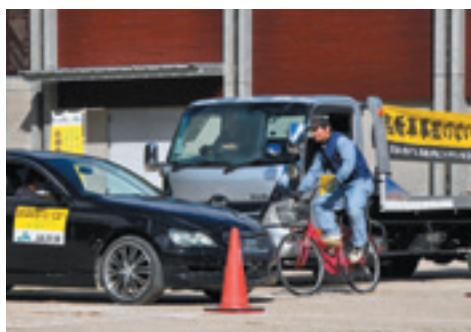




まちむらネットワーク



ながら運転の自転車と衝突



トラックの横をすり抜けようとした瞬間の衝突を再現



運転中のドライバーの死角を確認しました。

この取り組みは、デラウエアやトマト・アムスメロンの出荷時期に併せ、山本市長に贈呈するなどPR活動を行っている春夏の作物同様に、秋の果物を代表する西条柿・秋作アールスマロンやトマト・ミニトマトを試食として提供し、益田市を代表する秋の作物として、PR広報活動に力を入れていただこうと企画したもののです。

試食会には益田産デラウエアを原料として醸造された島根ワインもテーブルに並びました。



最も糖度が高い西条柿は、最後に召し上がっていただきました。

自転車交通安全運転教室

J A共済連とJ Aしまね西いわみ地区本部は10月15日、吉賀町立柿木中学校グラウンドで、柿木中学校の全校生徒・柿木小学校の全児童が参加し、自転車の交通安全教室を開きました。

区本部の開会前に同中学校長室において反射材の贈呈式を行い、西いわみ地区本部の竹長隆本部長が柿木中学校教頭の渡辺美和子先生に反射材を渡しました。

グラウンドでは開会式が行われ、主催者を代表して竹長本部長は挨拶でJ Aが主催するこの取り組みは平成21年に始まり、今回が86校目の開催となつたことを紹介し「実際の事故を模したスタンントを見てもらうことで、気軽に乗れる自転車であつても重大な事故につながることを実感し、ヘルメットの着用や交通ルールをきちんと守ることの大切さを学んでほしい」と話しました。

実演が始まると見学に参加した皆さんからは、時折「わー危ない」といった大きな声が聞こえてきました。最後に事故の再現を見学した生徒・児童を代表し、柿木中学校3年生の大田陸翔さんが、「高校生になつても自転車に乗る時には、安全確保のためヘルメットの着用を心掛けたい」と話し、危険を覚悟で実演していただいたスタンントマンの皆さんにお礼の挨拶をしました。

この教室はどこでも起こり得る交通事故を再現することで、日頃から気軽に乗っている自転車による事故の怖さや、交通ルールの大切さを学んでもらおうとJ A共済の交通事故対策活動の一環として、島根県下の警察署とJ Aが協力して取り組んでいます。



J Aしまね西いわみ地区本部は10月21日、最盛期を迎えた秋の味覚、西条柿・秋作アールスマロン・トマト・ミニトマトを、山本浩章益田市長に試食していただく「秋の味覚試食会」を行いました。

この日益田市役所を訪れた各生産者（西条柿・メロン・トマト・ミニトマト・ブドウ）の代表等は、山本市長にそれぞれの農産物の近年の生育状況や、今日の市場における益田産の評価・単価の推移などについて報告しました。

この取り組みは、デラウエアやトマト・アムスマロンの出荷時期に併せ、山本市長に贈呈するなどPR活動を行っている春夏の作物同様に、秋の果物を代表する西条柿・秋作アールスマロンやトマト・ミニトマトを試食として提供し、益田市を代表する秋の作物として、PR広報活動に力を入れていただこうと企画したもののです。

秋の味覚試食会を開催しました

西部地区子牛共進会

JAしまねは10月17日、益田市遠田町の西部家畜市場において子牛共進会を開催しました。

この日は県西部地区から21頭の子牛が出品され、森脇俊輔審査長（島根県西部農林水産振興センター川本家畜衛生部長）ほか5人の審査委員によって厳正な審査が行われました。

出品された子牛は何れも栄養度、発育など順調な生育が伺え、審査基準に照らし合わせた個体審査にて11頭の優秀賞牛が選出され、その後行われた比較審査の結果、株式会社田原牧場の「おおいすみ号」が最優秀賞に輝きました。

全国和牛登録協会島根県支部長小林健宣審査員の展示講評、森脇審査長の審査講評では、共に島根県種畜共進会における西部地区の健闘を称えた後、「本日出品された子牛は全てが地区を代表する牛で、今後どのような繁殖牛に育つか期待が持てる。是非とも農場・地区で保有し次世代へと引き継いでいただきたい」と報告がありました。また、部位賞を受賞した京村牧場の「するが号」は、審査員から毛の柔らかさ・毛の密度、皮膚のゆとりが高い評価を受けての受賞となりました。

受賞内容は次のとおりです。

優良賞主席	部位(資質)賞	優秀賞4席	優秀賞3席	最優秀賞		内容
				生産者	住所	
佐々木健二	(農)京村牧場	佐々木健二	水津誠司	株田原牧場	益田市	島根県農業協同組合長賞
JAしまね	JAしまね	JAしまね	JAしまね	島根県農業協同組合長賞	島根県農業共済組合長賞	島根県畜産振興協議会会長賞
JAしまね	JAしまね	JAしまね	JAしまね	JA西日本くみあい飼料株式会社長賞	JA西日本くみあい飼料株式会社長賞	JA西日本くみあい飼料株式会社長賞



JA全農島根農機サポート株式会社も、この日の共進会に併せて展示会を開催しました。



最優秀賞受賞に満面の笑みで応えていただきました。



最優秀賞に輝いた株式会社田原牧場の「おおいすみ号」と田原武吉さん

令和7年産米集荷速報

令和7年10月17日現在

(単位: 30kg)

		益田市			津和野町		吉賀町		合計
		益田	美都	匹見	津和野	日原	柿木	六日市	
出荷予約数量	R7	25,557	3,379	9,066	25,879	3,140	3,198	12,382	82,601
	R6	26,714	3,907	9,750	26,604	3,312	4,657	15,173	90,117
集荷数量	R7	20,834	2,957	8,633	19,651	2,138	1,129	5,716	61,058
	R6	15,687	2,635	9,044	19,406	1,376	1,301	5,844	55,293
集荷率	R7	81.5%	87.5%	95.2%	75.9%	68.1%	35.3%	46.2%	73.9%
	R6	58.7%	67.4%	92.8%	72.9%	41.5%	27.9%	38.5%	61.4%
1等米比率	うるち全品種	R7	42.6%	83.1%	98.4%	66.7%	34.0%	26.9%	54.7%
	R6	40.8%	73.0%	76.3%	33.7%	14.0%	29.9%	29.7%	43.2%
	コシヒカリ	R7	24.9%	79.6%	97.6%	67.5%	12.0%	20.4%	27.1%
	R6	14.4%	61.3%	87.3%	32.9%	6.8%	34.9%	29.7%	42.2%
	ヘルシー米他特栽米	R7	0.0%	8.3%	97.1%	38.8%	0.0%	0.0%	77.8%
	R6	74.8%	9.9%	100.0%	37.4%	0.0%	0.0%	0.0%	35.7%
	つきあかり	R7	22.2%	0.0%	100.0%	27.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	R6	44.4%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.6%
	きぬむすめ	R7	62.0%	82.1%	99.4%	72.8%	63.1%	0.0%	71.6%
	R6	55.1%	83.6%	85.4%	38.9%	17.6%	13.0%	55.0%	51.3%
	つや姫	R7	41.3%	97.3%	100.0%	74.3%	50.0%	43.3%	89.3%
	R6	47.8%	87.5%	100.0%	26.5%	64.1%	35.9%	50.5%	45.8%

CE分未計上

品種別主な格下げ理由

○全品種ともに白未熟粒による格下げが多い（昨年と比べカメムシによる斑点米は少ない）

※登熟期に当たる7・8月の高温及び水不足が要因

※9月からの秋雨により刈取りが遅れている

水

稻





まちむらネットワーク



なかなかの大きさ!



立派な芋が姿を現し始めました。



立派なサツマイモが次々と収穫されていきました。

掘り上げたさつま芋は給食の食材に使用したり、園児が自宅に持ち帰り家族みんなで食べることです。

幼い頃から作物を育てるこことに興味を持ち、収穫の喜びを感じながら食の大切さを理解してもらう「食育」の取り組みは、JAの重要な活動と位置づけ継続した支援を行っています。

10月16日、益田市市原町のまるに保育所で、園児たちが6月に植えたさつま芋の収穫作業を行いました。

この日も苗の植え付け時同様、岡崎雄一さんと橋本百合香さんたちの協力で、100本の苗に育ったさつま芋を次々に掘り起こしていきました。

園児たちは、先生や岡崎さんたちが指し示す場所の芋づるを両手で力いっぱい引っ張り、次々に姿を現すさつま芋を両手で抱えるようにして収穫していました。



たくさんのかつま芋が収穫されました

税 益田税務署からのお知らせ

e-Tax

申告・納税はe-Taxで手続を！

■ スマホから確定申告

- ◆ 確定申告はマイナポータル連携により、医療費やふるさと納税のデータが自動入力！
- ◆ 入力内容を確認したら、そのまま送信！ 計算ミスもなく安心♪

e-Tax 送信

申告書の作成はこちから！



- ◆ 「マイナンバーカード」と「マイナンバーカード読み取対応のスマートフォン」をお持ちの方は、e-Taxで送信して申告ができます。



e-Tax ってこんなに便利！

24時間いつでもどこでも利用可能！

データで保存ペーパーレスですっきり！

添付書類もオンライン提出郵送不要！

■ キャッシュレス納付

国税の納付手続きは、「キャッシュレス納付」が便利です。

ダイレクト納付

e-Tax を利用して、事前に届出をした預貯金口座から、口座引落しにより納付する方法

インターネットバンキング等による電子納税

インターネットバンキング口座やATMから納付する方法

キャッシュレス納付の詳細はこち



振替納税(個人の方のみ)

事前に届出をした預貯金口座から、国税庁が指定する振替日に自動で口座引落しにより納付する方法

クレジットカード納付

専用サイト「国税クレジットカードお支払サイト」を経由し、クレジットカードを使用して納付する方法

スマホアプリ納付

e-Tax で申告等データを送信した後などに、専用サイト「国税スマートフォン決済専用サイト」を経由し、「〇〇Pay」といったスマホ決済アプリを使用して納付する方法

問い合わせ先／益田税務署 TEL(0856)22-0444(代表)

お題
「紅葉」

俳句
か川柳

1月のお題は「初詣」です
ご応募お待ちしております

◆締切
令和7年
12/15
(当日消印有効)

紅葉の一枝そえて 月見酒
紅葉をもどめてにぎわう 匹見峡
日が出たら 紅葉を見に 出掛けよう
孫子等と 紅葉愛でる ピクニック
もみじ葉の 山里でらし あかあかと
西日向け かえで紅葉 里の秋
紅葉のよう 初孫元気 振る両手
紅葉の枯れ葉まじりの 乱舞かな
紅葉が 短い秋を ひとりじめ
晴れた空 もみじ色づき 絵の如し
もう秋よ 万葉公園 いつ紅葉
紅葉狩り 初秋に漂う 鬼女退治
紅葉グランドゴルフ 管理者に感謝
目に紅葉 口にはツガニの 高津川
お手紙に 紅葉の押し葉 そつと添え
ハーモニカ 唱歌の紅葉 吹いて見た
お堀池 紅葉が浮かぶ こいの里
紅葉の 色鮮さ 虹舌をまく
女子会 お茶請けには 紅葉まんじゅう
紅葉わ ライトアップで 別世界
紅葉の 見頃になると 熊も出る
わが里の すばらしき紅葉 いつまでも
竹林に ひとりわもえる 紅葉樹
窓ごしに 紅葉する山 日々見つる

(益田市 柳井 文江さん)
(益田市 藤井キヨコさん)
(益田市 野村 芳子さん)
(益田市 田中千代子さん)
(益田市 濱谷美保子さん)
(益田市 初山 敏子さん)
(益田市 岡崎 雄一さん)
(益田市 吉村 芳江さん)
(益田市 佐々木 いさ子さん)
(益田市 村上登美子さん)
(益田市 喜村 信江さん)
(益田市 小笠原かよみさん)
(益田市 加治イトヨさん)
(益田市 金子 貞男さん)
(益田市 齋藤 照平さん)
(益田市 大井 守さん)
(益田市 日熊 春子さん)
(津和野町 大羽ミヤ子さん)
(津和野町 桑原八恵子さん)
(津和野町 豊田 往野さん)
(津和野町 斎藤 久衛さん)
(津和野町 古山 包子さん)
(津和野町 中野 健二さん)
(津和野町 高谷喜里栄さん)

応募
方法

●葉書に 俳句か川柳かを明記してください。 住所、氏名、電話番号をご記入ください。
●あて先 〒698-0024 益田市駅前町15-1 JAしまね 西いわみ地区本部 企画総務部 総務ふれあい課

『移動型店舗
パリミキカー』



メガネ・補聴器の専門店  PARIS MIKI

令和7年 12月度 JA巡回スケジュール 西いわみ地区

3日(水)	9時半～13時	匹見事業所	17日(水)	9時半～13時	匹見事業所
8日(月)	9時～13時	日原経済C	22日(月)	9時半～13時	柿木事業所
10日(水)	10時～13時	六日市経済C	23日(火)	10時～15時	パリミキフェア 美都事業所(会議室)
15日(月)	9時半～13時	津和野経済C	25日(木)	10時～15時	Aコープラボ店前 (益田東支店) 
16日(火)	9時～12時 13時～16時	西益田支店 益田中央支店	26日(金)	9時～12時 13時～16時	中西事業所 益田グリーンセンター

お問合せ、訪問のご相談は 直通  090-6955-1612 へ お気軽はどうぞ

島根県西部農林水産振興センターからのお知らせ

有機JAS栽培の取り組みについて

1. 有機水稻展示ほ（自動抑草ロボットの活用）について



有機水稻では、特に**雑草対策に係る労力**が大きな課題です。管内ではアイガモ農法や乗用除草機の活用など様々な対策が行われていますが、より一層の省力化が求められています。

そこで今年、新型の**自動抑草ロボット**を活用した省力的な抑草管理を目指し展示ほを設置しました。

田植え後4日目から約1か月の期間稼働しました。抑草ロボットだけではすべての草を抑えきれませんが、乗用除草機と併用することで、**除草機の稼働回数を減らし**ヒ工など雑草を抑えられる可能性が見えてきました。



I社製

また、管内では抑草ロボットの他に有機水稻の省力的な抑草・除草技術として紙マルチ田植機の活用など様々な方法が模索されています。

2. 有機野菜展示ほ（ミニパプリカとサトイモ）について

近年の**夏場の高温**により**果菜類は日焼け果**の発生が問題となっています。これは有機栽培でも同様です。そこで、その対策として**40%、60%遮光資材の導入**を展示ほで実施しました。

遮光による生育遅延が懸念されましたが、無遮光の株と大きな**生育の差**はなく、日焼け果は**減少**する結果となりました。



有機JAS認証制度とは？

有機食品のJAS法（日本農林規格等に関する法律）に適合していることを、第三者機関が検査し、認証された事業者のみに有機JASマークの使用を認める制度です。

この認証マークがついていないければ「有機」や「オーガニック」と表示することは出来ません。

近年、第三者認証である有機JAS認証へのニーズも高まり、全国的に取り組みが拡大しています。

有機JASマーク



Check!

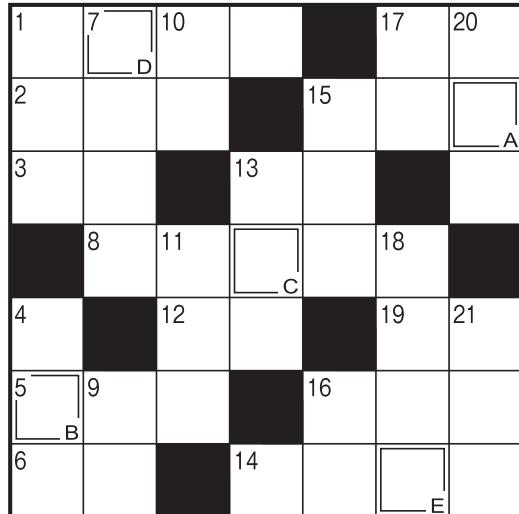
クロスワード パズル

農協全国商品券を
もらっちゃおう!!



二重マスの文字をA～Eの順に並べて
できる言葉は何でしょうか？

出題●ニコリ



答え A B C D E

タテのカギ

- ①夜目——笠の内
- ④足を中に入れて暖を取ります
- ⑦サッカー日本女子代表の愛称に使われている花
- ⑨クリスマスツリーに使われる木
- ⑩日本酒を温めること
- ⑪じょうごとも呼ばれる道具
- ⑬忘年会で乾杯の——を取った
- ⑯高いところに載せたものを取るときの体勢
- ⑯クリスマスツリーのてっぺんに飾ります
- ⑰青い染め物に使われる植物
- ⑱物ごとの順序などがさかさまになっていること
- ⑳ささがきにすることも多い根菜
- ㉑韓国の首都

出典：(株)日本農業新聞『JA広報通信』2025年11月号

ヨコのカギ

- ①サンタクロースが乗るソリを引きます
- ②練り物や大根などを煮込みます
- ③ごはんのこと。握り——
- ⑤和服の袖の下、袋状の部分
- ⑥——を憎んで人を憎まず
- ⑧南米の北端にある国。首都はボゴタ
- ⑫漢字では独活と書く山菜
- ⑯木を切り倒すときに使います
- ⑯dBと表記される、音などの強さを示す単位
- ⑯暮れのあいさつとして贈ります
- ⑯人間は二足——をする生き物です
- ⑰疲れたときには出して、おいしいときには落ちるもの
- ⑯泣き顔になること。——をかく

応募要項

応募方法

ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。右記の二次元コードからもご応募いただけます。

先月号の答え

「ブンカサイ」



賞品

正解者の中から抽選で30名 (JAしまね全体)の方に「農協全国商品券」をお贈りします。

当選者発表

賞品の発送をもってかえさせていただきます。

宛先・締切

〒698-0024 益田市駅前町15-1

JAしまね 西いわみ地区本部 総務ふれあい課 「クイズ」係
2025年12月5日 (金) (当日消印有効)

・先月号は、西いわみ地区本部管内で59人の方からご応募いただきました。

「家の光」でも俳句・川柳・詩・短歌を毎月募集しています。こちらへもぜひご応募ください!
[家の光] 12月号 定価900円
ご購読は、お近くのJAへお問合せください。



JAしまねびよりは、皆様からの俳句・川柳を募集しています。締切は毎月14日必着です。(最優秀賞1句、優秀賞3句、佳作5句)
12月号は川柳を募集します。1回のご応募につきお一人様3句までご応募いただけます。

佳作

番内の追ふ子まばらな秋祭

出雲市 森脇 英徳 様

出雲路の赤きサルビア走者待つ
聞こえしはただ一匹の虫の声
手花火に集まる小さき膝頭
真白なページに一句秋うらら
形あるものの影濃き良夜かな

優秀賞

出雲市 藤江 勝 様

肥後の守今も現役柿を剥く

出雲市 茂 様

みずっぱな残るティッシュの数を読む

西ノ島町 川上 茂 様

番内の追ふ子まばらな秋祭

出雲市 加地 良子 様

出雲市 小豆澤典子 様
浜田市 三沢 孝子 様
浜田市 小川美砂子 様
出雲市 北村 功 様

俳句の広場

選句者 「白魚火」

編集長・副主宰
安食 彰彦先生

評 世界の温帯・熱帯で栽培されている野菜。多くの地茄子があり、さまざまな形態をした特徴ある品種を作られている。この益田市の茄子は特においしいらしい。(茄子=夏の季語)

最優秀賞

益田市 竹田 数子 様

焼いて良し煮ても揚げても茄子美味し

〒690-0887 松江市殿町19-1

J Aしまね ふれあい福祉課

「俳句の広場係」または「川柳の広場係」

FAX : 0852-67-7708

Eメール : fureai.hon@ja-shimane.gr.jp

最優秀賞、優秀賞の4名様には「農協全国商品券1,000円分」をお贈りします。

・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送のみに使用し、その他の目的で利用することはありません。



JAしまね

冬のプレミアム金利

定期貯金キャンペーン

-組合員・利用者の皆様へ感謝と新たなつながりの創造-

令和7年 12/1(月) ▶ 令和8年 2/27(金)

くわしくはお近くのJA窓口までお問い合わせください

**住まいの
冬でも
足元快適
率断熱リフォーム**

調査・お見積
無料!

床下の断熱

お問い合わせ先
最寄りのJA各支店に
お問い合わせください

取扱業者 （会社）島田山商事株式会社企画部（島田商302）・島田商303
Kodama 株式会社コタマサイエンス
 ■本社／島根県松江市西伊島2-8-23 ☎0852-43-0852
 ■松江営業所／0852-25-6757 ■出雲営業所／0853-31-9600
 ■益田営業所／0853-22-5300 ■江津営業所／0855-52-6852
 ■雲州営業所／0851-23-2471





さつまいもの味噌バター炊き込みご飯

材料（4人分）

米	2合
さつまいも	1本(350g)
A みりん	大さじ1
酒	大さじ1
塩	ひとつまみ
ベーコン	2枚
バター	20g
ごま(黒)	適量

作り方

- 米を研いで炊飯器に入れ、普通より少し硬めの水加減にする。
- さつまいもは洗って汚れているところを取り除き、皮付きのまま大きく4つ割りにする。
- ベーコンは1cm幅に切る。
- Aを混ぜ合わせて炊飯器に入れ、塩を加えてひと混ぜし、炊飯器の目盛りが2合になるようにする。足りなければ水を追加する。
- 米の上にさつまいもとベーコンを乗せて炊飯する。
- しゃもじでさつまいもを切るようにして大きめにほぐし、その上にバターを加えて、全体にからめるように混ぜる。
- 器に盛り、黒ごまを散らす。

コメント

- さつまいもがたっぷり入った炊き込みご飯です。底にできるおこげも楽しめます。
- 味噌とバターで調味するので、コクが増し、いつもの炊き込みが苦手な方でも美味し食べられます。



アレンジ

- ピザ用チーズをフライパンに置き、中火にかけ、溶け始めたらチーズの上に小判型にしたご飯を乗せる。
- ベーコンを鶏肉や豚肉にかえてもOK!

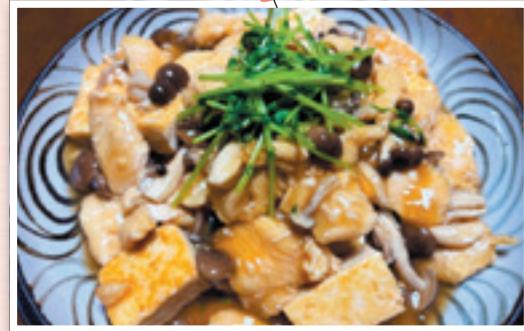
鶏肉と豆腐ときのこのとろみ煮

材料（4人分）

ささみ	5本
片栗粉	大さじ2
木綿豆腐	1丁
しめじ	1袋
油	大さじ1
A だし汁	400cc
砂糖	大さじ3
薄口醤油	大さじ3弱
酒	大さじ2
生姜(すりおろし)	小さじ1
豆苗	適量

作り方

- ささみは筋を取ってからそぎ切りにする。
- 豆腐は軽く水切りして、縦横半分に切って4等分し、さらに1枚を3等分する。
- しめじは石づきを取って、小房に分ける。
- ビニール袋にささみと片栗粉を入れて振り、粉を薄くつける。
- フライパンに油を入れ、豆腐を並べ入れて、両面色よく焼き、取り出す。
- ⑤のフライパンにAを入れて煮立たせ、焼き豆腐を入れる。
- 煮立ってきたら、豆腐を片側に寄せ、しめじと④のささみを入れ、上下を返しながら、しめじがしんなりとするまで煮る。
- 豆苗を長さ2~3cmに切り、さっと煮汁にくぐらせて火を通す。
- 器に盛り、豆苗を最後にのせる。



コメント

- 肉に片栗粉をまぶすことでき、肉の旨味を閉じ込め、しっとり仕上がり、汁に上品なとろみがつきます。
- 冷えた体を暖かく包み込む味わいで、寒くなってきたこの季節にぴったりです。

アレンジ

- ささみを鶏むね肉や鴨肉にかえたり、豚ひれ肉やブリなどにかえたりしてもOK。
- 野菜は旬の野菜をいろいろ組み合わせて!しいたけ、しめじ、舞茸、麸などを入れても美味しいです。

JA 島根厚生連

健康散歩

冬の感染予防

秋から冬へと寒さや乾燥が厳しくなるにつれ、風邪やインフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルスなどの感染症が流行しやすい季節となります。

感染症は①病原体（感染源）の排除、②感染経路の遮断、③人の抵抗力を高めることで予防することができます。

コロナ禍の時期、感染に注意して過ごしていたと思いますが、再確認として感染予防のポイントを改めてお伝えします。ご自身だけでなく周囲の人にも配慮し、寒い季節を健康で過ごしましょう。

感染症予防のポイント

1. 手洗い

いろいろな場所を触ることで、知らないうちに手にウイルスなどが付き、自分や周りの人への感染原因となることがあります。

- 帰宅時や調理の前後、食事前、トイレの後に石鹼を使って手洗いしましょう。
- 手の甲や指の間、指先、爪の間、手首をしっかりとこすり合わせて洗いましょう。

2. 咳エチケット

咳やくしゃみをすると、病原体を含んだものが飛び散っている可能性があります。

- 咳やくしゃみが出る時はマスクを着用しましょう。
- マスクがない時はティッシュやハンカチで口や鼻を覆いましょう。
- とっさに出る時は手のひらで覆わず、袖や上着の内側で覆

いましょう。

・周囲の人となるべく離れましょう。

3. 換気

室内に停滞したウイルスを室外に排出することで、感染リスクを低減できます。

・空気の通り道を作るために離れた2カ所の窓やドアを開けましょう。

・部屋は十分暖めてから換気しましょう。

4. 消毒薬の選択

代表的なものとしてアルコール（エタノール）、次亜塩素酸ナトリウムがあります。

・インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスはアルコールが有効です。明らかな汚れがない時や手洗いができない時は手指消毒用アルコールを利用しましょう。

・ノロウイルスは次亜塩素酸ナトリウムが有効です。トイレの便座や嘔吐物、便などの清掃時に使用するとよいでしょう。（商品の使用方法に沿ってご使用ください）

・清掃時は使い捨てマスクや手袋を装着し、清掃後は流水と石鹼で手洗いをしましょう。

5. 抵抗力の向上

ワクチンの予防接種や栄養バランスのとれた食事、適度な運動、良好な睡眠をとり、規則正しい生活を送ることで抵抗力を高めることができます。

